

発表者氏名：高道由子（京都大学）

タイトル：「東ネパール・テラトゥムのダカ織—手工芸を通じた開発とその後のものづくりの変遷」

本発表では、開発、民主化、グローバリゼーションと出稼ぎを経験した、1980年代以降のネパールで、どのような経済活動が展開し、ネパールの社会経済変容と人々の経済活動がどのように結びついているのかについて、山間地の手織物生産を事例として明らかにした。ネパールの社会経済研究では、開発が成功したか否かに焦点があたり、実際にネパールで回り始めている経済活動がどのようなものかについては、注目されてこなかった。そこで本発表では、山間地で興隆しているダカ織生産に着目して、その要因の検討を試みた。コメンテーターからのコメントと質疑応答では、本発表の位置づけや問いの曖昧さや、生産量や織り手数に関する具体的な数値データを示す必要性に対する指摘を頂くとともに、織り手が「開発」や「グローバリゼーション」をどのように捉えているのか、ナショナリズムやエスニックアイデンティティと織物がどのような展開を経て結びついたのかといった質問と、有益な助言を頂いた。